



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月4日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社 上場取引所 東
コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）河越 誠剛
問合せ先責任者 （役職名）常務取締役グループ経営管理 （氏名）松本 真司 TEL 0859-22-7477
本部長
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	35,787	8.8	7,441	△0.5	7,517	△0.0	5,016	0.5
2025年3月期中間期	32,906	13.9	7,476	12.9	7,520	12.8	4,990	12.1

（注）包括利益 2026年3月期中間期 5,014百万円（1.2%） 2025年3月期中間期 4,954百万円（10.5%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	32.49	—
2025年3月期中間期	32.07	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期中間期	50,985	40,305	79.0	260.97
2025年3月期	51,980	40,085	77.1	259.67

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 40,302百万円 2025年3月期 40,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	32.00	32.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	35.00	35.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	79,670	10.1	19,650	11.6	19,720	11.5	13,400	10.5	86.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名)ー、除外 ー社 (社名)ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	155,658,402株	2025年3月期	155,658,402株
2026年3月期中間期	1,225,366株	2025年3月期	1,295,797株
2026年3月期中間期	154,392,790株	2025年3月期中間期	155,616,933株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、雇用・所得環境の改善などにより、景気は持ち直しの動きが見られました。一方で、原材料価格の高騰や訪日客数の伸びの鈍化、また、継続的な物価上昇による消費者の節約志向の強まりなどにより、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、持続的な成長を目指すべく、中長期経営目標「Value Up Vision2030」を本年5月に公表し、「お菓子の総合プロデューサー」をビジョン(Vision)に掲げ、美味しさと地域性を追求した「プレミアムギフトスイーツ」の創造と育成に注力いたしております。また、経営理念をベースとした「全員参画による超現場主義経営」の徹底実践を成長テーマに位置づけ、目標突破に向けて各種の事業施策に取り組んでおります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は35,787百万円(前年同期比8.8%増)、営業利益は7,441百万円(前年同期比0.5%減)、経常利益は7,517百万円(前年同期比0.0%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は5,016百万円(前年同期比0.5%増)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

従来、「シュクレイ」及び「九十九島グループ」は、それぞれ独立セグメントとしておりましたが、2025年4月1日付で実施した連結子会社間の組織再編(会社分割)に伴い、当中間連結会計期間より統合し、セグメント区分を「シュクレイグループ」に変更いたしており、以下の記載における前中間連結会計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。また、「寿製菓・但馬寿」としていた報告セグメントの名称を当中間連結会計期間より「寿製菓グループ」に変更いたしております

① シュクレイグループ

シュクレイグループは、首都圏エリアでは、主力ブランド「東京ミルクチーズ工場」のリブランドの第一弾として本年6月に看板商品のリニューアルを実施いたしました。また、「ザ・ドロス」の新定番商品「サンドクッキー(マスカルポーネ&ヘーゼルナッツ)」の発売や昨年12月発売の「フィオラッテ」の「サンドクッキー」の販売強化など、各ブランドにおいて主力商品を軸に季節限定などの新商品を順次投入し、ブランド訴求力の向上に努めました。福岡・長崎エリアでは、新商品「赤い風船」の「博多いちごいちご」の販売強化、また、「タンテ・アニメ」を本年6月、ハウステンボス本店開設以来、初となる常設店を長崎駅に出店(ブランド変更を伴う移転)いたしました。インバウンド対策では、国際線ターミナルでの売場拡大に向け、販売人員の増強や「抹茶ちとせ」商品の拡販などに注力いたしました。出退店では、本年9月、ニューマン高輪に「東京ミルクチーズ工場」がリブランド後初のフラッグシップ店舗をオープンするなど、2店の出店及び2店の退店を行いました。その結果、売上高は16,563百万円(前年同期比6.7%増)、営業利益は2,641百万円(前年同期比7.2%減)となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」を擁するケイシイシイは、更なるブランド価値の増大に向け、直営店舗の「ルタオ新千歳空港店」及び「ルタオ札幌大丸店」の全面リニューアルを行い、また、新紅茶カテゴリー「&L e T A O」の発売や新作限定スイーツを順次投入するなど、新商品開発を推進いたしました。インバウンド対策では、国際線ターミナルでの売場拡大に向け、販売人員の増強や提案営業の推進などに注力いたしました。通信販売では、母の日などの季節イベント対策を推進し、また、本年6月、「ルタオ」のポイント制度のリニューアルを行い、店舗とオンラインショップとの相互連携を図りました。「ナウオンチーズ」などの首都圏ブランドでは、ブランド認知度を高めるため、期間限定出店に注力いたしました。その結果、売上高は10,272百万円(前年同期比9.8%増)となり、営業利益は1,830百万円(前年同期比8.1%減)となりました。

③ 寿製菓グループ

寿製菓グループは、主要代理店や販売子会社とのタイアップを密にし、主力商品対策や売場提案、新商品開発などの提案営業を推進いたしました。販路拡大では、沖縄において、OEM展開の推進や自社ブランドでありますパインアップルスイーツ専門店「ニューキュー」の展開強化などに取り組みしました。地元の山陰地区では、本年8月にJR鳥取駅の商業ゾーンのリニューアルにあわせ、セレクトショップ「鳥取 菓の座」をリニューアルオープンいたしました。また、本年5月30日から6月15日に開催された「第28回 全国菓子大博覧会・北海道」に出展し、山陰地区で展開している主力商品をアピールいたしました。その結果、売上高は8,141百万円(前年同期比11.9%増)、営業利益は1,789百万円(前年同期比13.6%増)となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、各販売拠点において主力商品対策及び地域特性にマッチした新商品の発売などに注力いたしました。エリア別では、東海地区は、季節限定新商品「伊勢幸祝水まんじゅう」の発売、関西地区は、主力商品「大阪はちみつクワトロフォルマッジ」の販売強化などに取り組みしました。また、福岡地区では、10周年を迎えた「博多まっかな苺」ブランドの展開強化を推進しました。その結果、売上高は3,741百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益は474百万円(前年同期比6.3%増)となりました。

⑤ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。売上高は310百万円（前年同期比0.6%増）となり、営業利益は5百万円（前年同期比67.7%減）となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、50,985百万円となり前連結会計年度末と比べ994百万円減少いたしました。

主な要因は、現金及び預金の減少（1,322百万円）、受取手形及び売掛金の減少（1,011百万円）、有形固定資産の増加（563百万円）、商品及び製品の増加（482百万円）などによるものです。

負債は、10,679百万円となり前連結会計年度末と比べ1,215百万円減少いたしました。

主な要因は、未払法人税等の減少（802百万円）、1年内返済予定の長期借入金の減少（300百万円）などによるものです。

純資産は、40,305百万円となり前連結会計年度末と比べ220百万円増加いたしました。

主な要因は、配当金の支払いによる減少（4,939百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益計上による増加（5,016百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.9ポイント増加し79.0%となり、1株当たり純資産額は260円97銭となりました。

② キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ3,322百万円減少し、21,758百万円（前期末比13.2%減）となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、5,263百万円（前年同期比0.2%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前中間純利益7,511百万円、売上債権の増減額1,014百万円、非資金項目であります減価償却費778百万円の増加要因があった一方、法人税等の支払額が△3,262百万円、棚卸資産の増減額が△636百万円となったこと等による減少要因によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、3,353百万円（前年同期比104.6%増）となりました。

主な要因は、定期預金の預入による支出が3,000百万円、有形固定資産の取得による支出が1,240百万円等の減少要因があった一方、定期預金の払戻による収入が1,000百万円となったこと等による増加要因によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、5,242百万円（前年同期比20.3%増）となりました。

主な要因は、配当金の支払額が4,939百万円となったことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、前回公表数字（2025年5月13日付「2025年3月期決算短信」）からの変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,081	24,758
受取手形及び売掛金	7,400	6,389
商品及び製品	2,882	3,364
仕掛品	155	241
原材料及び貯蔵品	913	983
その他	216	304
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	37,649	36,041
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,980	5,142
機械装置及び運搬具（純額）	2,934	3,297
工具、器具及び備品（純額）	425	462
土地	3,026	3,067
リース資産（純額）	11	17
建設仮勘定	141	95
有形固定資産合計	11,520	12,083
無形固定資産	108	128
投資その他の資産		
その他	2,707	2,736
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	2,702	2,730
固定資産合計	14,331	14,943
資産合計	51,980	50,985

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,169	2,069
1年内返済予定の長期借入金	300	—
未払金	1,575	1,465
未払法人税等	3,327	2,524
賞与引当金	1,222	1,351
その他	1,141	1,074
流動負債合計	9,735	8,485
固定負債		
退職給付に係る負債	1,916	1,946
その他	242	247
固定負債合計	2,158	2,193
負債合計	11,894	10,679
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,263	1,263
資本剰余金	1,368	1,350
利益剰余金	40,274	40,350
自己株式	△3,006	△2,842
株主資本合計	39,900	40,122
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	63
為替換算調整勘定	25	30
退職給付に係る調整累計額	101	87
その他の包括利益累計額合計	182	180
非支配株主持分	2	2
純資産合計	40,085	40,305
負債純資産合計	51,980	50,985

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	32,906	35,787
売上原価	12,529	14,261
売上総利益	20,376	21,526
販売費及び一般管理費	12,899	14,085
営業利益	7,476	7,441
営業外収益		
受取利息	0	12
受取配当金	3	3
受取地代家賃	24	24
受取保険金	8	24
その他	13	13
営業外収益合計	51	79
営業外費用		
減価償却費	1	1
その他	6	1
営業外費用合計	7	3
経常利益	7,520	7,517
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	6	6
特別損失合計	6	6
税金等調整前中間純利益	7,514	7,511
法人税等	2,524	2,495
中間純利益	4,990	5,016
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	—	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	4,990	5,016

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	4,990	5,016
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	8
為替換算調整勘定	△22	4
退職給付に係る調整額	△10	△14
その他の包括利益合計	△35	△1
中間包括利益	4,954	5,014
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,954	5,014
非支配株主に係る中間包括利益	—	△0

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	7,514	7,511
減価償却費	625	778
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
株式報酬費用	25	58
賞与引当金の増減額(△は減少)	190	128
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	7	7
受取利息及び受取配当金	△4	△16
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	—
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
固定資産除却損	6	6
受取保険金	△8	△24
売上債権の増減額(△は増加)	1,101	1,014
棚卸資産の増減額(△は増加)	△744	△636
仕入債務の増減額(△は減少)	226	△100
その他	△930	△235
小計	8,010	8,489
利息及び配当金の受取額	4	12
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,771	△3,262
保険金の受取額	8	24
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,252	5,263
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,000	△3,000
定期預金の払戻による収入	1,000	1,000
投資有価証券の売却による収入	0	—
有形固定資産の取得による支出	△1,482	△1,240
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	△49	△37
敷金及び保証金の差入による支出	△35	△23
敷金及び保証金の回収による収入	5	20
その他	△78	△73
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,639	△3,353
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	—	△300
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2	△2
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△4,356	△4,939
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,358	△5,242
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△747	△3,322
現金及び現金同等物の期首残高	22,689	25,081
現金及び現金同等物の中間期末残高	21,941	21,758

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				
	シュクレイ グループ	ケイシイシイ	寿製菓 グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	15,000	9,134	4,959	3,503	32,597
セグメント間の内部売上高又は振替高	527	221	2,315	65	3,130
計	15,528	9,355	7,275	3,568	35,727
セグメント利益	2,846	1,991	1,574	446	6,859

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	308	32,906	—	32,906
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3,130	△3,130	—
計	308	36,036	△3,130	32,906
セグメント利益	17	6,876	599	7,476

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、損害保険代理業、健康食品事業、並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。また、当中間連結会計期間において、当社の連結子会社である寿製菓株式会社が株式会社宮古島の雪塩(旧:株式会社パラダイスプラン)と合併により2024年7月25日に株式会社ケーエムエフを設立したため、連結の範囲に含めております。当該連結子会社は「寿製菓グループ」の区分に含めておりますが、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表に与える影響はありません。

2. セグメント利益の調整額599百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額1,090百万円、セグメント間取引消去額15百万円、棚卸資産の調整額△20百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△485百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				
	シュクレイ グループ	ケイシイシイ	寿製菓 グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	16,010	10,122	5,663	3,681	35,477
セグメント間の内部売上高又は振替高	553	150	2,478	59	3,241
計	16,563	10,272	8,141	3,741	38,719
セグメント利益	2,641	1,830	1,789	474	6,736

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	310	35,787	—	35,787
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3,242	△3,242	—
計	310	39,030	△3,242	35,787
セグメント利益	5	6,742	698	7,441

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、損害保険代理業、健康食品事業、並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益の調整額698百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額1,148百万円、セグメント間取引消去額15百万円、棚卸資産の調整額36百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△501百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

従来「シュクレイ」及び「九十九島グループ」は、それぞれ独立セグメントとしておりましたが、2025年4月1日付で実施した連結子会社間の組織再編(会社分割)に伴い、当中間連結会計期間より統合し、セグメント区分を「シュクレイグループ」に変更いたしており、前中間連結会計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。また、「寿製菓・但馬寿」としていた報告セグメントの名称を当中間連結会計期間より「寿製菓グループ」に変更いたしております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。